

久留米市埋蔵文化財センター
 E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
 〒0942-30-9225 FAX.0942-30-9718
 久留米市城南町15番地3(市役所16階)
 久留米市文化観光部 文化財保護課
 《文化財に関するお問い合わせ先》

宮ノ陣校区の文化財マップ
 平成23年3月31日
 発行: 久留米市
 編集: 文化観光部文化財保護課



入館料: 無料
 休館日: 土日・祝祭日・年末年始
 開館時間: 午前9時~午後5時

市内の遺跡から出土した土器や石器・金属器などの遺物をはじめ、発掘調査や整理作業の際に作成した図面・写真などの記録類を収蔵・整理・研究するための施設です。
 当センターでは、資料の貸出しや閲覧、文化財に関するご相談にも応じています。また、毎年秋には「考古資料展」を開催し、収蔵資料の公開を行っています。
 ふるさとの歴史に関心をお持ちの皆さん、ぜひお越しください。お待ちしております。



久留米市埋蔵文化財センターのご案内

文化財マップ

宮ノ陣校区の

■宮ノ陣校区の文化財■

宮ノ陣は筑後川中流右岸に位置しており、明治22年市町村制施行により宮瀬村(明治九年に宮地村・国分寺村・荒瀬村が合併)・五郎丸村・大杜村(明治九年森村・草場村が合併)・若松村(明治九年恋段村・古賀村が合併)・八丁島村の五村が合併し、宮ノ陣村となり、昭和33年に久留米市に合併され、現在に至っています。

宮ノ陣町内には縄文時代の遺跡の存在は確認されていませんが、筑後川の川底や五万騎塚の発掘調査で縄文時代の土器が出土しており、遺跡が周辺にあったのではないかと考えられます。弥生時代になると「八丁島遺跡」で試掘調査の際、弥生時代中期の土器片が出土しており、恐らく集落跡があったと思われます。古墳時代の遺跡は見つかってはいませんが、対岸上流にある太郎原遺跡では古墳時代の集落跡が筑後川の堤防脇で発見されており、集落は宮ノ陣一帯にも今後新たに発見されるかもしれません。

奈良・平安時代の遺跡は見つかってはいません。鎌倉時代になると、現在の宮ノ陣町にみられる地名が、古文書などにあらわれます。五郎丸は、東寺宝莊院の鱒坂庄の構成した名田として現れ、鎌倉時代末期に幕府から太宰府天満宮安楽寺に寄進され、以後安楽寺領となりました。永仁四年(1296)の「玉垂宮大善寺仏神事記」によれば、三瀧庄の村々とともに、鎮守大善寺玉垂宮の祭礼諸役(田楽・相撲)を負担していることが知られます。大杜地区の草場は、永正八年(1511)年の古文書に「鱒坂庄之内草庭之庄」として初めて現れます。「草庭」とありますが、これは「くさば」と読みます。鱒坂庄とは四条家を領家として、東寺宝莊院を本家とする宮ノ陣・小郡一帯にあった荘園です。また森は天正11年(1583)の高良山大祝領坪付に「森十五町」がみえます。当地には筑後川の渡しの一つである「杜の渡し」がありました。八丁島も鎌倉時代から確認できる地名です。建武元年(1334)の筑後国司宣に国衛尋問使として八丁島四郎入道道西の名が見られ、この人物は恐らく同村を苗字地とした、在地領主と思われます。この地に鎌倉時代には村落があったことは間違いのないことでしょう。天正十四年(1586)には島津軍の北上に際し、筑紫広門の家臣岩橋氏が古賀城と町を焼き払ったことも文献で知られています。

宮ノ陣町は南北朝の戦いの過程で、懐良親王が陣を構えたことに因んだものと伝えられているように、南北朝期に焦点があてられていますが、地名などからもっと古く、鎌倉時代にはすでに宮ノ陣地区は開発が行われ、村落があったことが確かめられます。現在、この地区の歴史がどこまで遡るか不明ですが、今後発掘調査等の進展に伴い、鎌倉時代以降の遺跡やそれ以前の弥生・古墳・奈良・平安時代の遺跡が発見されるものと考えられます。

■こんなにあるぞ!! 宮ノ陣校区の文化財■

No.	遺跡の名前	遺跡の時代	こんな遺跡です
1	道標	江戸	思案橋の袂にあり、河川改修により現在位置に移されています。天保十四年、「右おごふりさいふ」「左たしろ さが道」とあり、この橋が肥前と筑前の分岐点です。
2	宮ノ陣神社	明治	明治21年高良大社宮司船曳鉄門が主となり、神殿を創建。南北朝期の征西將軍宮懐良親王・良成親王を合祀されています。
3	遍万寺	室町	永禄年中(1558~1570)建立と伝えられます。
4	国分寺	室町	古代の国分寺(国分町日吉神社一帯)の移転再興。『校訂筑後志』によれば、足利尊氏が再興し、慶長年間(1596~1615)筑後国主田中吉政が再興。明治二年頃県指定の地蔵来迎板碑を高良山愛宕神社奥の院から移しています。
5	五万騎塚	南北朝	昭和43年に九州縦貫自動車道路建設のため、現在地に移転再建。大原合戦の戦死者を集めて葬ったと伝えられます。僅かな高まりが残っていましたが、発掘調査では縄文~中世の遺物出土しているが、南北朝期の遺物や人骨は出土していません。
6	五郎丸館跡	鎌倉	近藤氏累代の館跡。『筑後将士軍談』に「村中藪林の内にあり、近藤氏代々の館跡なり」とありますが、場所等は不明です。
7	報身寺	江戸	毛利秀包の時代に絶えた龍泉寺に代え、承応二年(1653)善導寺弁恩と当寺の住持となり寂嘗が再興と伝えられています。
8	円通寺	江戸	境内に杜の渡しに建っていた道標が残っています。
9	杜の渡し碑	南北朝	円通寺の南東、筑後川の堤防上にあります。大保原合戦の時南朝方軍勢がここを渡河したと伝えられています。
10	浄秀寺	安土桃山	文禄三年(1594)善慶が建立と伝えられます。草場村内には、慈恩寺・福厳寺があったが江戸時代に退転しています。